

BB 通信

11月 vol.03



×



9月からスタートした第一回フューチャーズリーグも無事終了しました。改めてチャレンジして良かったと実感しています。選手のコンディションを最優先に考えながら、多くの選手に出場機会を確実に与えることができました。来年以降、オリジナルルールもアップデートしながら時代に沿ったリーグ戦を開催していきたいと思います。保護者の皆様、ご理解、ご協力、ありがとうございました。

『人生、七転び八代亜紀』

ご存知のように、この秋、BBフューチャーは昨年まで25年間実施したビッグボーイズ大会に変わり、皆様のご協力の下で第一回フューチャーズリーグを開催しました。

これまでの大会と比べて、何よりも大きな違いはトーナメント制からリーグ戦に変わったことです。

そう、勝っても負けても次の試合がある、という大きな変化が加わったのです。

そもそも野球というスポーツは、その日の調子や運で勝敗が左右されやすいスポーツです。ラグビーなど体がぶつかるスポーツはほぼ間違いなく強いチームが勝利しますが、野球は同じ投手同士が投げ合っても勝ったり負けたり、プロでも80勝60敗で優勝が狙える、4勝3敗ペースで良いスポーツなんですね。丸いボールを丸いバットで打つんですから偶然性は必然的に高まります。

そんな競技を負けたら最後のトーナメント制で行うと、色んな無理が出てきます。エースピッチャーの投げ過ぎも、過度な練習も、全ての試合を勝ち抜こうと思ったらせざるを得なくなり、結局その負担が子供たちにかかってくるのだと思います。

よくよく考えてみれば全世界でトーナメント制の野球大会はほとんど見たことがありません。それはそもそも野球がトーナメントに向かないスポーツであるからなのだと思います。

人生の中でも何をやってもうまくいかない日もあります。でも、明日はまたやってきて、いつの日かまた挽回できれば良いですよ。仕事がうまく行って大喜びしていたら、飛んでもない落とし穴がその先にあるかもしれないですよ。そう、人生も一回負けたら終わりのトーナメント制ではなく、勝ったり負けたりしながらリーグ戦のように続いていくんだと思います。

今日の結果にかかわらず必ず次の試合があるリーグ戦の中で、子どもたちが野球を通じて人生を生き抜く力を養ってくれば、これほどの喜びはないとスタッフ一同思っています。来年以降も続けていきたいと思っていますので、引き続きご理解とご協力よろしくお願ひします。

阪長友仁

『OBの声』

皆様こんにちは、堺ビッグボーイズ28期生、現在は山口県高川学園高等学校2年生の吉川知寿です。

僕は堺ビッグボーイズに入部して数々の経験をさせてもらったんですが、その中でも人としての常識であったり、礼儀を教えて頂きました。堺ビッグボーイズでの活動は2年半という短い期間でしたが、人として変わるきっかけを掴むことができたと思っています。挨拶や返事はこれから社会に出ていく中でとても役にたつことです。高校に進んでから感じたことですが、こういうことは他のチームでは教えてもらえないので、堺ビッグボーイズで教わったことが改めて大切だと実感しました。

後輩のみんなも今はそういうことの大切がまだ分からないかもしれませんが、指導者の教えを信じてこれからも野球はもちろん、それ以外のこともがんばって下さい。

■吉川 知寿(キッカワ トモヒサ)堺ビッグボーイズ28期生—高川学園高等学校2年生

堺ビッグボーイズ時代は秋・春・夏、二塁手としてボーイズリーグ三大会出場、投手としても大きく貢献した選手です。体は大きくなかったですが、現広陵高校、喜多君が1番を打ち、吉川君が2番を打ち、攻撃の繋ぎ役としてもチームに欠かせない存在でした。当時、小学5年生でお兄ちゃんの応援に来ていたのが2年生の吉川マロ君です！

1年生の選手、保護者の皆さんはご存じない方も多いと思うので、私を知る堺ビッグボーイズの歴史と私の自己紹介をさせていただきます。

私は堺ビッグボーイズ16期生、キャプテンを務めていました。15期生、16期生で春の全国大会二連覇を達成、ガチガチの勝利至上主義チームでした。(笑)週末はナイター照明をつける時間まで練習するのは当たり前、勝っても怒られるのは当たり前、そんなチームでした。練習内容も将来のことより、目の前の試合にどう勝つかが大切で実践練習ばかり行っていました、選手として当時のチームを私は好きでした。試合に勝つことで辛い、苦しいことが浄化されていました。

16期生の入部時の人数は40名、卒部する時には20名になっていました。練習、試合も今のように全員が参加できるのではなく、能力のある選手が優先して練習を行わせてもらっていました。当時はそれが当たり前だと思っていましたね。「あいつもそろそろ危ないらしいぞ」選手間でそういう会話も当り前の時代でした。ビッグボーイズ年間優勝回数も歴代NO1、甲子園にも多数の選手が出場、15期生の先輩も合わせると10名近い選手が出場したこともありましたが(開会式前はちょっとした同窓会でしたね)。ですが、16期生の同期で大学に進学し最後まで野球を続けた選手は、私が把握する限り1名だけです。高校で野球を辞める選手、大学で途中退部する選手ばかりでした。

今思えば、中・高で華やか舞台を経験させてもらったこと、厳しい練習や寮生活を送ることで『燃え尽き症候群』になっている選手も多かったと思います。(私もその一人です)

その後、野球しかしてこなかった選手達はみんな壁にぶつかりました・・・。「あの時もっとこうしていれば・・・」みんながそう思っていました。勝つため、試合に出るために、中学でも高校でも指導者の言うことを忠実に守ろうとしてきた選手には「自ら考えて行動すること」が一番苦手なことになっています。当然私もその一人でした。それでもまだ、私の現役時代は野球だけ上手ければ高校、大学に進学できた、そんな時代でした。でも今の時代は返事だけできる『体育会系』を必要とされる時代ではなくなってきました。

現在のビッグボーイズは、様々な選手に出番があり、練習も平等に行いながら、「自ら考えて行動する」訓練を行っています。誰かの顔色を見ながら試合に挑んでいる選手は2、3年生にはいません。一昔前のように常に勝ち続けるチームではなくなりましたが、途中退部する選手が減り、OB選手が多数戻ってきてくれるチームになりました。私がコーチを務めさせてもらったのが26期生からです。26期生は24名の選手が卒部、現在大学一回生の年代ですが、把握している限り15名の選手が大学でも野球を続けてくれています。5年前に従来の指導方針を一新、様々な壁にぶつかって、ぶち破って、を繰り返してきました。その成果が徐々に形になって現れてきました。

残念ながら自分のことばかりしか考えられなくなっている人が社会で増えている気がします。ビッグボーイズの選手には常々こんな言葉を掛けています。『目配り・気配り・思いやり』、携わった選手が、強く優しい人に成長してくれることを望んでいます。

そんなことを考えると「今」の勝利より、これから羽ばたく「未来」のためにどうアプローチするかが重要です。堺ビッグボーイズには現状に満足するという感覚を持っていないスタッフばかりです。歴史を大切にしながらも変化することを恐れずこれからもチャレンジし続けます！！

2015年4月 堺BB小学部設立

小・中一貫指導開始

子供達の可能性を最大限引き出す！
堺ビッグボーイズから世界に羽ばたく人材を輩出します！

皆様、広報にご協力下さい。

詳しくは、お気軽に久富コーチまで！！

BB塾

無料体験実施中！

個別指導：10,000円/月～
場所：プロスペクト株式会社 3F
お問い合わせ：TEL.070-1218-8753
お気軽に岩井までお声掛けください！

